

政務活動費 活動実績報告書

件名	一期生研修
使途	1 調査研究費 ○ 2 研修費 3 要請・陳情活動費
金額	
期日	令和 7 年 7 月 1 4 日（月）
場所	黒木斎場、日向神ダム、花宗用水組合、立花山下排水機場
目的	斎場及び治水に関する現地調査
参加者	1 期生 7 名
所感	1. 黒木斎場（黒木町） 八女市で最も古い火葬施設であり、地元住民からもたびたび改善の要望が寄せられている。現地を確認したところ、老朽化は明確であり、今後の維持・改修方針が課題であると再認識した。ただし、現状でも使用は可能な部分が多く、単純な建替えの是非については慎重な判断が求められる。地域住民の思い、立地の地盤状況、安全性、雪害時のアクセスなど、多角的な観点から検討を要する。 また、今後は市全体で斎場の在り方を議論する専門委員会が設置されており、各地域の代表議員が参画している。私は委員ではないが、地域住民の意見を橋渡しできるよう努めたい。 2. 日向神ダム（矢部村） 矢部川の最上流に位置し、八女地域の水資源と防災の要として機能している。現場職員からは、気候変動による水位変動や異常気象の頻発により、「想定外」の対応を迫られるケースが増えているとの声があった。 特に夜間放流時の情報共有体制には課題があり、今後は防災機関や自治体間の「柔軟な運用」および「迅速な連携」の強化が求められる。 3. 花宗川・花宗用水組合（黒木町） 花宗川流域では、かつて矢部川を挟んで右岸（久留米藩）・左岸（柳川藩）がそれぞれ水を確保するために堰と用水路を整備していた歴史があり、非常にロマンを感じる その知恵と努力が、現在の治水システムの礎となっていることを学び、地域の歴史的背景と技術の積み重ねに深い感銘を受けた。

今後もこうした伝統的な水利管理の仕組みを尊重しつつ、次世代へと継承していくことが重要である。

4. 立花町山下地区 排水機場

令和2年7月豪雨で床上・床下浸水の被害があった地域。

当時は「なぜ守れなかったのか」という声が多く寄せられたが、現在は排水機場の整備が進み、一定の改善が見られる。

被災の経験を教訓とし、地域の信頼を回復するためにも、引き続き安全対策と情報共有を強化していく必要がある。

5. まとめ

本視察を通して、八女市の「過去・現在・未来」を俯瞰する機会となった。

施設や河川だけでなく、その背後にある地域住民の思いや歴史に触れ、改めて「現場から学ぶ」重要性を実感した。

一期生議員として、これからも学び続け、地域とともに歩む姿勢を忘れず活動していきたい。